



19世紀アメリカの作家であるエマソンの思想を後世の文学や哲学と比較し、エマソンが現在の文学や哲学にどのような影響をもたらしたのかについて研究しています。

略歴

2019年から3年間、日本大学文理学部で助手として勤務。2023年より、日本工業大学共通教育学群講師として着任。専門はアメリカ文学および比較文学。

所属学会など

日本アメリカ文学会
日本ホイットマン協会
日本ナサニエル・ホーリー協会
日本フラナリー・オコナー協会
国際文化表現学会

研究紹介

エマソンが世界の文学・哲学に与えた影響

現在の日本は世界の国々と盛んに交流しているため、明治時代初期まで、日本（人）が他国（とりわけ西洋諸国）との交流に積極的ではなかったという事実に驚くかもしれません。例えば、明治時代の日本の神道・仏教勢力はキリスト教およびその文化を積極的に受容することに強く反発していました。しかし例外として、思想体系が類似しているという理由で、日本の伝統的宗教勢力はキリスト教の一宗派であるユニテリアンとの対話の道を開きました。つまり、このユニテリアンという宗派はキリスト教の一派でありながら、キリスト教以外の宗教との思想的連関を所持しているとみなされたのです。

19世紀アメリカの作家エマソンもこの宗派に属していました。エマソンはキリスト教の枠組みにとらわれず、むしろそれを打破するかたちで創作を行いました。彼はキリスト教の世界観を超えてより一般的な意味で、そして自然科学的な視点も踏まえて、「文学」「自然」「歴史」といった人文学における重要なイデオロギーについて考えました。このようなエマソンの思想における普遍的な傾向が、アメリカにとどまらず、日本やヨーロッパなど世界中に影響を及ぼしたのだと考えています（例えば、有名なドイツの哲学者ニーチェもエマソンから多大な影響を受けており、洋の東西を問わないエマソンの影響力が窺えます）。現在は、エマソンから影響を受けた作家・思想家（ホルヘ・ルイス・ボルヘスなど）の作品を考察することで、これまであまり注目されていなかったエマソンの思想に照射する研究に取り組んでいます。

主な研究発表

- ・エマソンとボルヘスにおける「書物」について（日本アメリカ文学会東京支部11月例会分科会、令和5年）
- ・エマソンの“Brahma”と“Song of the Answerer”的類似性（日本ホイットマン協会第60回記念大会、令和4年）
- ・ホイットマンとエマソンにおける知性について（日本ホイットマン協会第59回例会、令和3年）

主な論文発表

- ・ホイットマンとエマソンにおける知性について（『ホイットマン研究論叢』第38号、令和4年）
- ・ホイットマンとエマソンにおける「一」と「多」の構造について（『ホイットマン研究論叢』第37号、令和3年）
- ・ホイットマンとポール・ヴァレリー（『ホイットマン研究論叢』第36号、令和2年）